

予約の先駆け PNR システム

佐久間 浩彰
<sakuma@bitcoffee.com>

1960年、アメリカン航空(米国)にIBM(米国)による座席予約システム、SABREが導入され、IBMはSABREをベースに、パン・アメリカン航空(米国)にPanamac、デルタ航空(米国)にDeltamaticを納入しました。

こうした座席予約システムは、PNR(Passenger Name Record, 乗客名前記録)システムと呼ばれ、民間による近代のコンピュータ利用の先駆けです。予約管理の原点はデータベースであり、数値計算とともに、コンピュータが最も得意とする分野です。

IBMは3社に納入したシステムをベースとしたパッケージ製品、PARS、後にIPARSと発展させ、世界各国の航空会社に納入しました。日本国内でも、日本航空(JAL)がIPARSをベースとしたJALCOM IIというシステムとして導入しています。

当時のハイエンドコンピュータの雄であるユニバック(米国、現ユニシス)もPARSに対抗するPNRシステムとして、USASというパッケージを開発しています。後発だけあって、PARSと比べてPARSが座席予約の機能のみを提供するのに対し、USASは発券、チェックイン、航空貨物、登場際管理、顧客管理などの、航空会社が必要とする業務を網羅するように設計されました。

日本国内では、日本航空に対抗する全日本空輸(ANA、以下全日空)が、ローンチカスタマーとして世界で初めてこのUSASをベースにしたRESANA(Reservation ANA)を導入しました。

当時はまだPNRシステムの重要性が認識されておらず、全日空でも国際線のみPNRシステムを導入する、という案があったと言われています。結局、ユニバックの後押しもあり、国際線、国内線ともPNRシステムが導入されることになりました。

日本独特の商習慣として、旅行代理店を通じた団体予約などがあり、USASでは想定されていない機能のため、ユニバックは日本法人である日本ユニバックと共同で、RESANAを開発しました。SABREに対抗したUSASは、1978年、日本でRESANAとしてサービスを開始しました。

今では、あって当たり前の航空座席予約システムですが、必要性が議論されるような時代もあったんですね。

余談ですが、その後JALのシステムは、JALCOM III(IBM系)、AXESS(日本航空、IBM系)と進化しました。ANAは、able(ユニバック)、INFINI(全日空、IBM系)と変化しています。特に、AXESSはIBM系のSABREとも連携できるようになっており、世界各国の航空会社で使われています。

今では世界各国の航空会社で当たり前のようにインターネット予約が行えるような時代になりました。先端のインターネット予約を支えているのも、PNRシステムなのです。

「Dr.Net 予約くん」はこれから先の時代、当たり前になるであろうインターネットによる診察予約を行うための予約管理システムです。